摂食障害から考える食と運動と健康　実施要項

１　目　　　的　　府立学校、市町村立学校の学校関係者に対し、子どもたちを取り巻く今日的諸課題の１つである摂食障害について研修を行い、理解促進を図ることで、多様な職種の教職員が連携して子どもの健康づくりに取り組める体制を構築していくきっかけをつくり、より一層の課題解決の推進に資する。

２　主　　　催　　大阪府教育庁

３　日　　　時　　平成３１年３月６日（水）　１５：００～１７：００（１４：３０～受付）

４　会　　　場　　大阪府教育センター　１１・１２研修室

大阪市住吉区苅田４－１３－２３　　TEL　０６－６６９２－１８８２

大阪メトロ御堂筋線「あびこ」駅下車　東北東へ約700m

ＪＲ阪和線「我孫子町」駅下車　東へ約1,400m

５　対　　　象　　府内小学校、中学校、義務教育学校、高等学校及び支援学校の管理職及び

学校保健・運動・食に関わる教職員等、全ての教職員

定員１４０名

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 14:30 15:00　　　　　　　　　　　　　 16:30　 　16:45　 17:00 | | | |
| 受付 | 講　　　義 | 質疑  応答 | 閉会 |

６　時　　　程

７　内　　　容　（１）講　　義　　 一般社団法人日本摂食障害協会　理事長　生野　照子　医師

○摂食障害とは（現状と学校現場における実状）

○摂食障害対策（支援・治療・予後）

○摂食障害とスポーツ・部活動との関わり

（２）質疑応答

８　そ　の 他 　　①会場には参加者用駐車場はありません。

　　　　　　　　　②来館時には、所属名・名前の入った名札を着用すること。

【摂食障害の現状】　～講師　生野 照子 医師のお話から～

　摂食障害は「やせ願望が強い」という症状はあるものの、単なるダイエット病ではなく、精神疾患の中で最も死亡率が高い疾患である。

要因は心理的、身体的の両方があり、一度発症すると周囲の環境を巻き込んで深刻化するため、心身ともに長期的な治療が必要とされる。本人に病識が乏しいため治療に抵抗することも多く、ときには死に至るほどの飢餓状態に陥ることもあることから、早期発見が極めて重要である。

以前は、思春期女子に増加傾向のあるものと捉えられがちであった摂食障害は、近年では青年期女子や男性など性別を問わず、幅広い年齢で発症しており、また、拒食症よりも過食症の発症が増加しているため、必ずしも痩せの状態であるとは限らず、把握されないために医療につながれない人も少なくない。

摂食障害の治療と支援は、様々な分野の専門家と本人と家族が手を携えてチームで取り組むことが大切であり、学校現場においては、教職員と保護者の緊密な連携に基づく慎重な介入が求められ、教職員の知識の充実と適切な対応が求められている。